

# メキシコ経済・自動車産業概観

－相次ぐ日系企業の進出－

2013年11月

在メキシコ日本国大使館

## 【参考】

- 本資料は【在メキシコ日本国大使館】ホームページ内、→【大使館案内】→【企業関係者の皆様へ】に掲載。  
URLは、<http://www.mx.emb-japan.go.jp/keizai/kigyoukankeisha.htm>
- また、同ホームページ内に「対墨日系企業投資案件リスト」も掲載(2011年から直近までの投資情報をリスト化)。

## 【利用上の注意】

- 本資料は企業支援を目的とし、作成時点で把握し得る限りの正確な情報の掲載に努めておりますが、資料中の情報に基づく判断・行為によって発生した一切の損失・損害に対しては、責任を負いかねますので、ご了承ください。

# 1. 投資ラッシュ

2. 何故メキシコか？

3. 競争力の背景

4. リスク

5. 潜在力、さらなる成長

6. 日本との連携

# 相次ぐ日系企業の進出

- ✓ 2011年以降、日系自動車メーカー4社がメキシコへの生産投資を発表。
- ✓ 関連日系企業も相次いでメキシコへ投資し、日系企業のメキシコへの投資案件数※は190件以上に及ぶ投資ラッシュ。(自動車及び部品124件、鉄鋼16件、物流12件、機械15件他)
- ✓ 約6割がメキシコへの製造拠点初進出。アジアに加えてメキシコに拠点を置く事例多数。

※ 2011年以降に公表／報道された投資案件。

発表時期	発表時期	発表時期	発表時期
2011	2011年6月	<u>マツダ</u> (グアナファト州)	14万台+4万台 (マツダ2、マツダ3) <b>製造初進出</b> 2013年1月に能力増強を発表。
	2011年8月	<u>ホンダ</u> (グアナファト州)	20万台 <b>本格進出</b> (組立工場から一貫生産工場へ)
2012	2012年1月	<u>日産</u> (アグアスカリエンテス州)	17.5万台 <b>能力増強</b> (第3工場) (小型車)
	2012年11月	<u>トヨタ</u> (グアナファト州)	5万台 <b>生産委託</b> (組立工場から一貫生産工場へ) (小型車)

完成車工場の投資が5件(新規4件、能力増強1件)、自動車部品の投資が119件

新日鐵住金が溶融亜鉛メッキ鋼板製造ラインを建設(製造初進出)

商社等各社が鋼板サービスセンターの能力を倍増

# 欧米系自動車メーカーの投資

- ✓ 欧米系自動車メーカーも競ってメキシコに投資。
- ✓ 日系、欧米系の総投資額は2008-2013の6年間で約151億ドル(約1.5兆円)の規模。

発表時期	企業名	投資額	投資内容
2008年	2008年5月 フォード	30.0 億\$	※改装投資(小型車生産)
2009年	2009年7月 VW	10.0 億\$	※改装投資(新モデル車生産)
2010年	2010年2月 クライスラー	5.5 億\$	※改装投資(小型車生産)
	2010年7月 日産	6.0 億\$	※改装投資(新モデル車生産)
	2010年8月 GM	5.0 億\$	※改装投資(小型車生産、エンジン生産)
	2010年9月 VW	5.5 億\$	※新規投資(エンジン生産)
2011年	2011年6月 マツダ	5.0 億\$	※新規投資(小型車生産)
	2011年8月 ホンダ	8.0 億\$	※新規投資(小型車生産)
2012年	2012年1月 日産	20.0 億\$	※新規投資(小型車生産)
	2012年4月 フォード	13.0 億\$	※改装投資(中型車生産)
	2012年9月 アウディ(VW)	13.0 億\$	※新規投資(SUV生産)
	2012年11月 トヨタ	— 億\$	※新規投資(小型車生産)
2013年	2013年1月 マツダ	1.5 億\$	※増強投資(小型車生産)
	2013年2月 日産(ジャトコ)	2.2 億\$	※増強投資(無段変速トランスミッション)
	2013年5月 ホンダ	4.7 億\$	※増強投資(無段変速トランスミッション)
	2013年6月 GM	6.9 億\$	※増強投資(次世代トランスミッション)
	2013年8月 マツダ	1.2 億\$	※増強投資(エンジン機械加工)
	2013年10月 クライスラー	12.5 億\$	※増強投資(商用車新型車生産、エンジン生産増設)
	2013年11月 VW	1.2 億\$	※増強投資(エンジン生産)

1. 投資ラッシュ

## 2. 何故メキシコか？

3. 競争力の背景

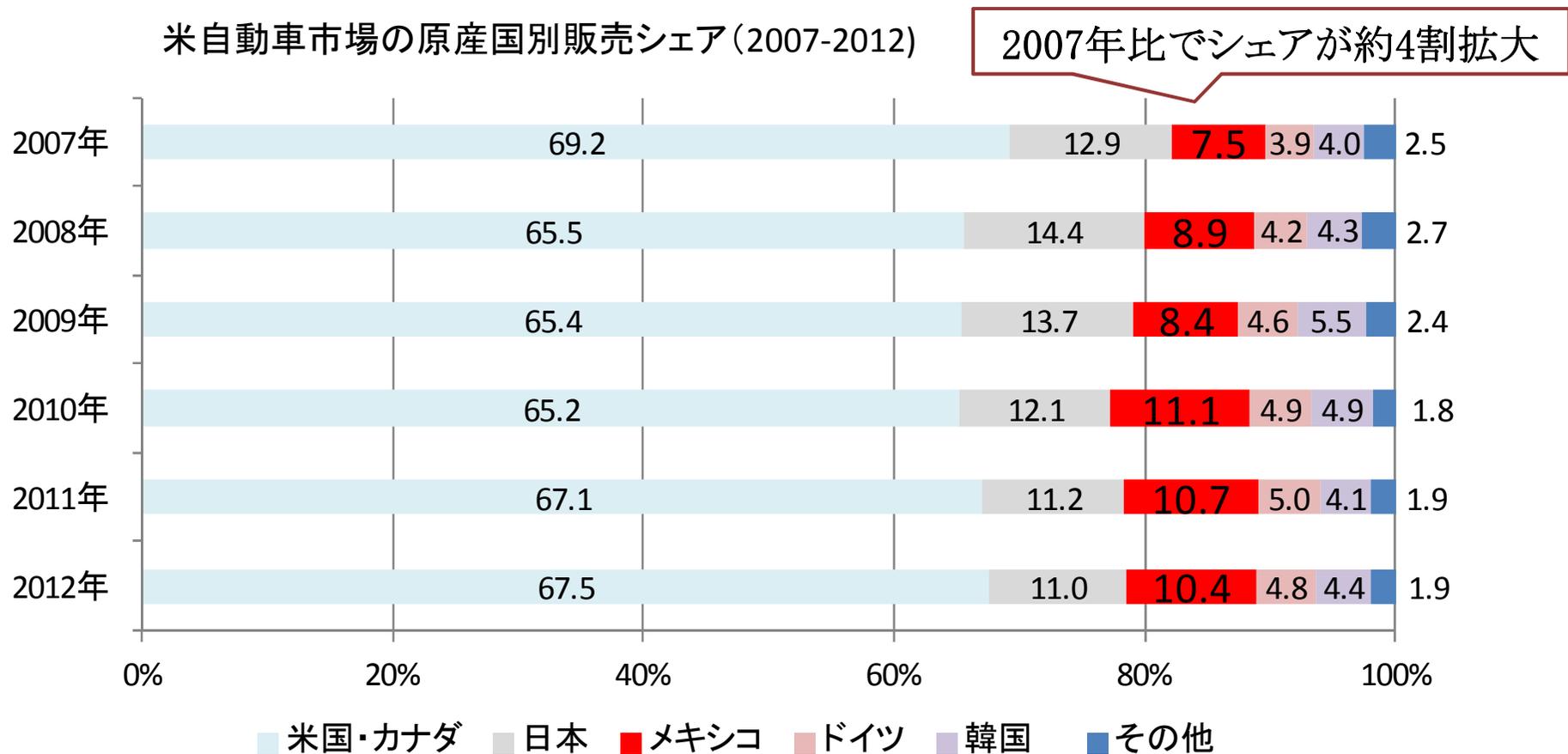
4. リスク

5. 潜在力、さらなる成長

6. 日本との連携

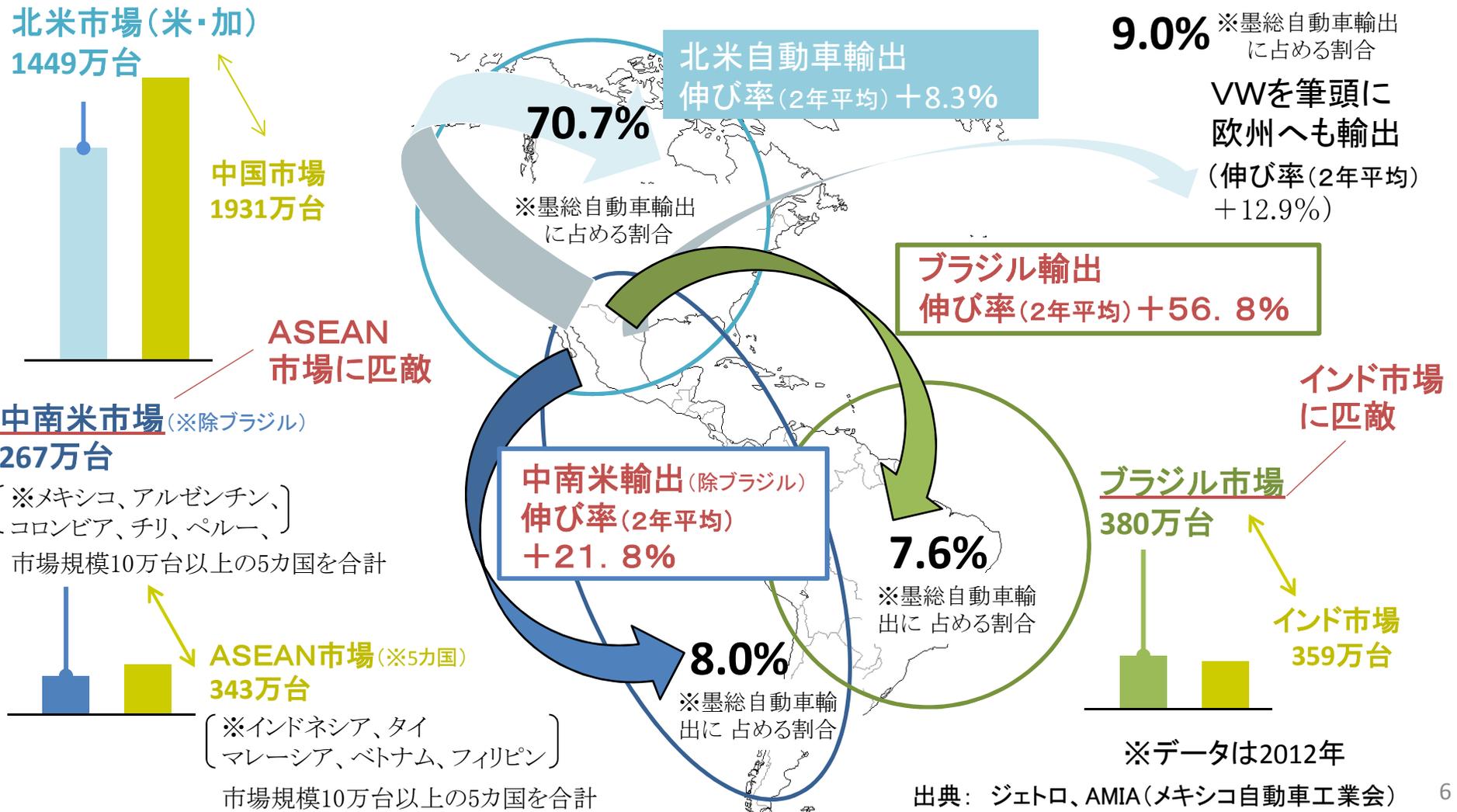
# 米国向けの自動車生産拠点

- ✓ メキシコは、世界第2位の自動車市場・米国とNAFTA(米・加・墨)により市場統合。
- ✓ メキシコ自動車輸出の約7割※は米国向け。近年、米国市場でのメキシコ産自動車のシェア・競争力は着実に増加(2007年比で約4割拡大)。 ※出典: AMIA(メキシコ自動車工業会)
- ✓ 日系・欧米系共に、完成車メーカーはこの米国市場を睨んでメキシコへ投資。



# 中南米向けの自動車生産拠点

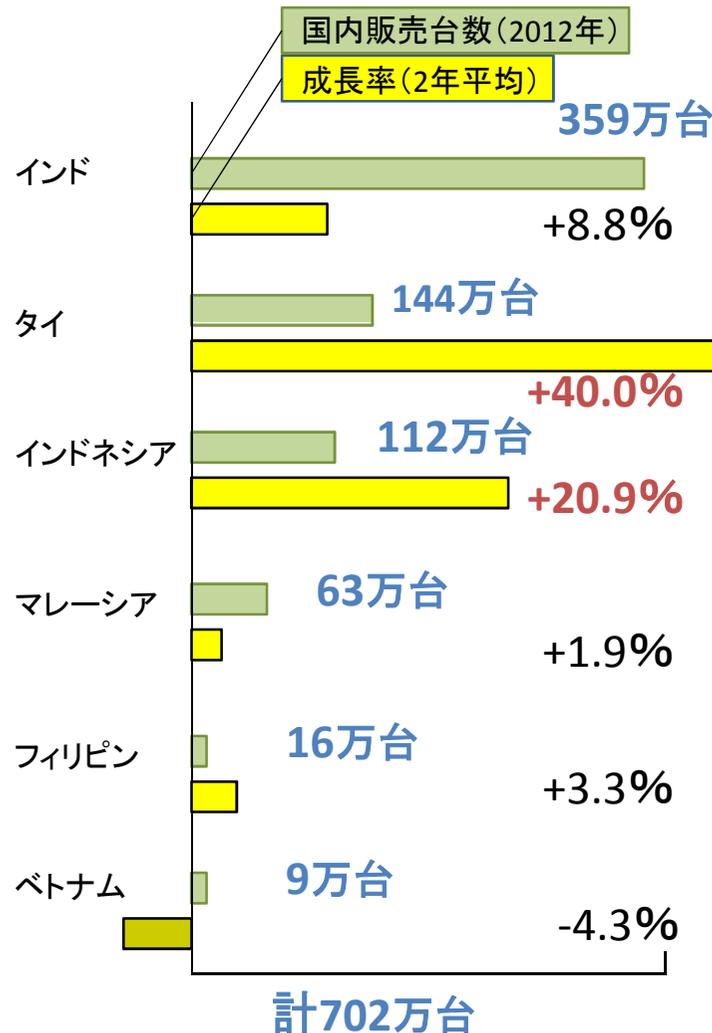
- ✓ さらに近年は中南米向けの輸出が増加（前年比：+11%（2012）, +59%（2011）, +98%（2010））
- ✓ 中南米の自動車市場は既にアジア市場に匹敵するまでに成長。完成車メーカーは中南米市場向けの生産基地としてメキシコに注目。



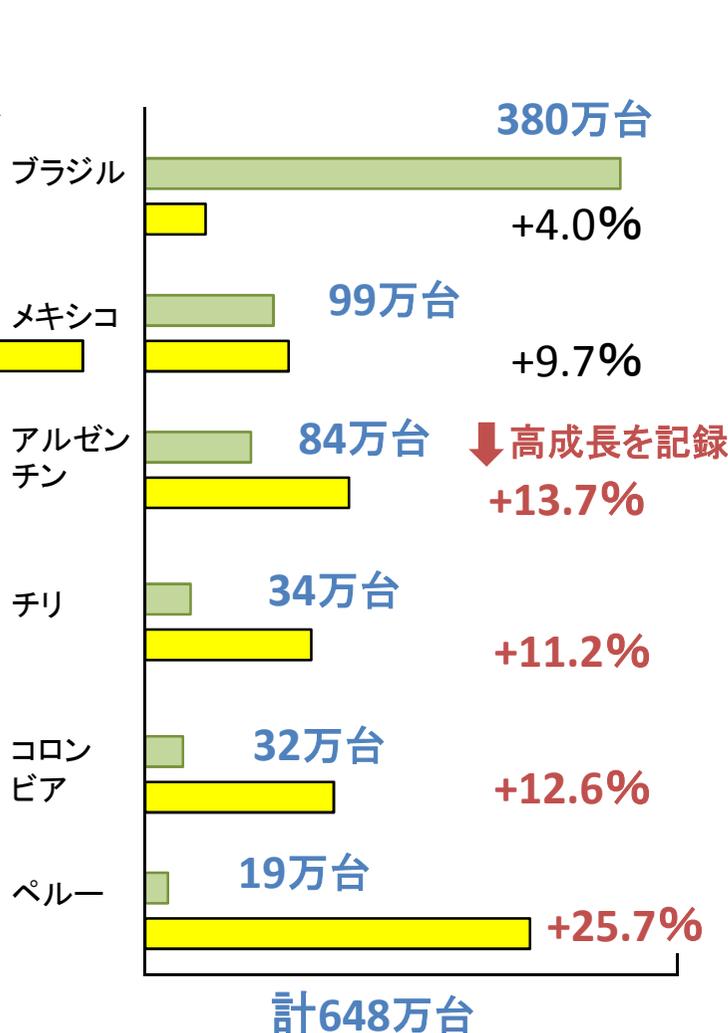
# 中南米自動車市場の拡大

- ✓ 加えて中南米自動車市場の成長率は近年アジア市場に匹敵し、ハイペースで拡大。
- ✓ メキシコは、これら成長する中南米各国への自動車輸出を増加させている。

アジア各国市場の規模、成長率



中南米各国市場の規模、成長率



メキシコからの輸出

(2012年(上段),2011年(下段))

対ブラジル	17.8万台, +30%	13.7万台, +83%
↑ メキシコから各国への輸出が増加 ↓		
対アルゼンチン	6.3万台, -11%	7.1万台, +21%
対チリ	2.5万台, -25%	3.3万台, +61%
対コロンビア	4.9万台, +5%	4.6万台, +113%
対ペルー	1.4万台, +52%	※

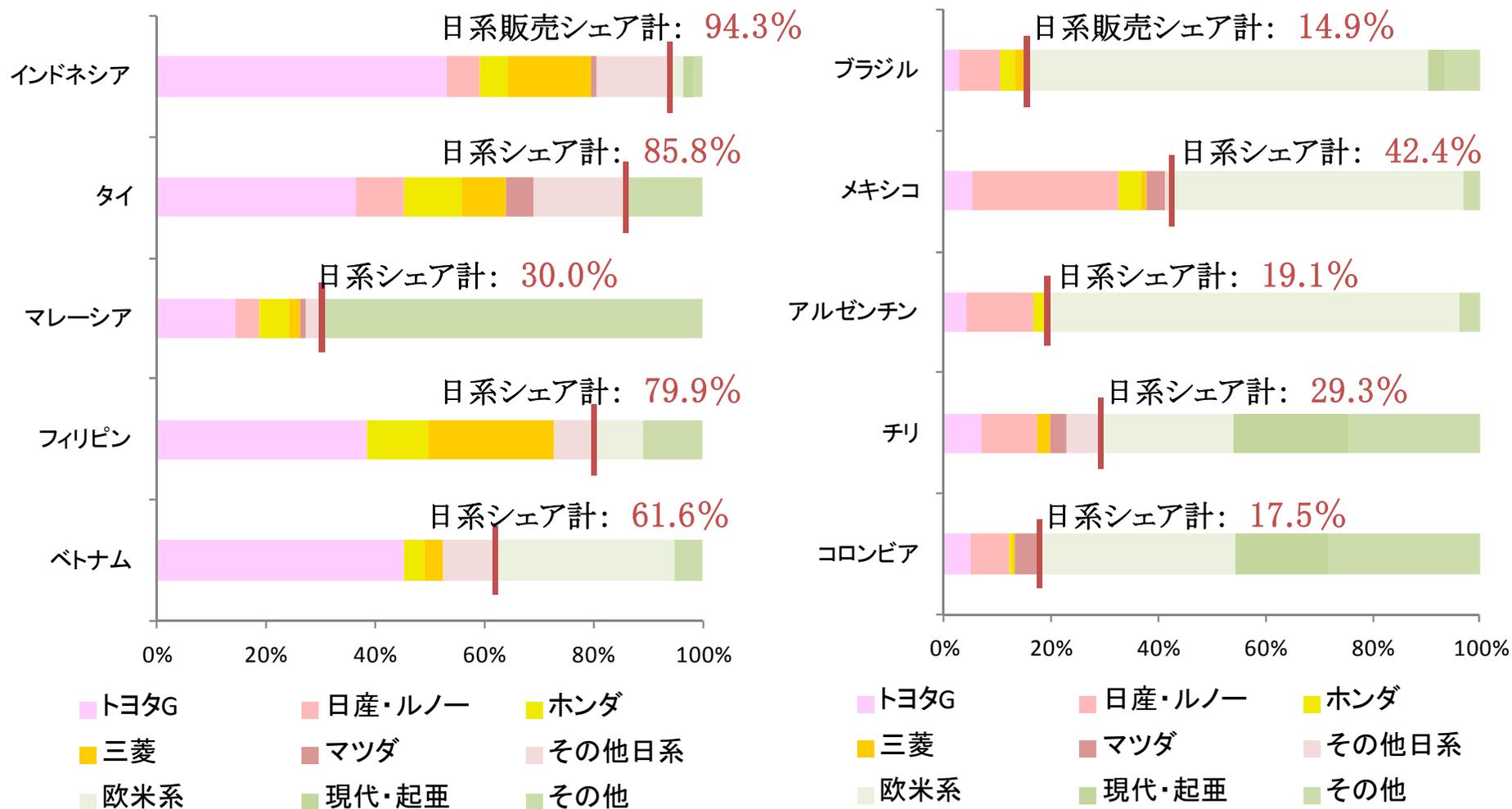
# 中南米市場でのシェア拡大に向けて

## 2. 何故メキシコか？

- ✓ 日系メーカーの中南米市場販売シェアは中低程度に止まる。（※他方、アジアでは高シェア。）
- ✓ 急成長する中南米市場、世界第2位の米国市場、この両市場で競争力を高める観点から、日系メーカーはメキシコを投資先として選択。

日系完成車メーカーの各国市場販売シェア(2011)

(出典: ジェトロ通商弘報他より作成)



# BRICsロシアを上回る自動車生産国

- ✓ メキシコの年間自動車生産台数はロシア、タイを上回り、世界第8位。  
(メキシコ300万台(世界8位)、タイ248万台(世界9位)、ロシア223万台(世界11位))
- ✓ 日系完成車メーカーの海外生産拠点としても、2015年にはインドネシアを上回り、世界第5位に浮上。

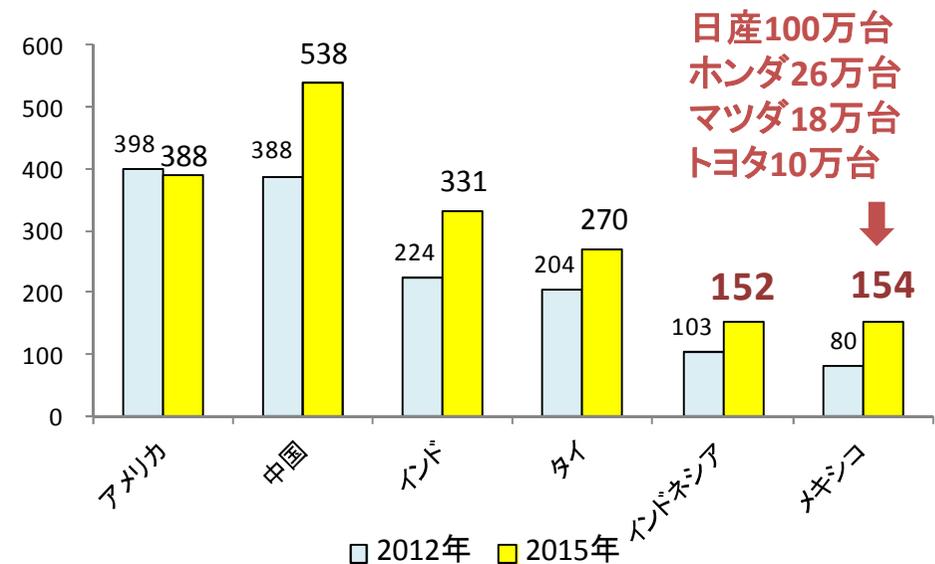
各国の自動車生産台数・順位(2012-2005)

2012年 (百万台)			2005年 (百万台)		
1位	中国	19.3	1位	アメリカ	11.9
2位	アメリカ	10.3	2位	日本	10.8
3位	日本	9.9	3位	ドイツ	5.8
4位	ドイツ	5.6	4位	中国	5.7
5位	韓国	4.6	5位	韓国	3.7
6位	インド	4.1	6位	フランス	3.5
7位	ブラジル	3.3	7位	スペイン	2.8
8位	メキシコ	3.0	8位	カナダ	2.7
9位	タイ	2.5	9位	ブラジル	2.5
10位	カナダ	2.5	10位	イギリス	1.8
11位	ロシア	2.2	11位	メキシコ	1.7
12位	スペイン	2.0	12位	インド	1.6
13位	フランス	2.0	13位	ロシア	1.4
14位	イギリス	1.6	14位	タイ	1.1
15位	チェコ	1.2	15位	イタリア	1.0

出典：国際自動車工業会(OICA)

日系完成車メーカーの海外生産能力 (2012-2015)

日系メーカーによるメキシコ生産能力は、2015年にはインドネシアを上回る見込み。



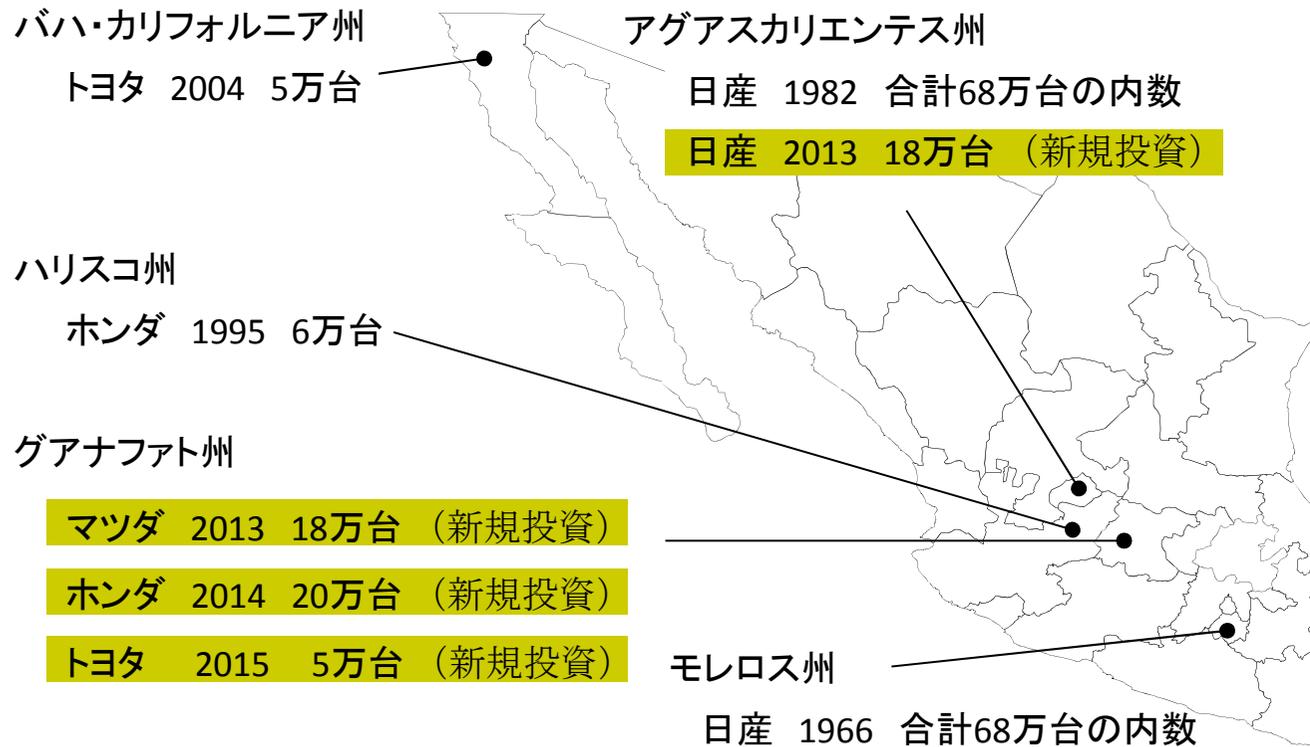
出典：FOURIN 世界自動車調査月報(2013.8) 9

# メキシコの位置付け変化

- ✓ これまでは主に欧米系完成車メーカーが、メキシコを生産拠点として活用。  
(ただし日産は進出50年以上。メキシコ第1位の生産メーカーであり、北米・中南米他に輸出。)
- ✓ 日系完成車メーカー各社の本格進出、さらに自動車部品・鉄鋼等企業の相次ぐ進出によって、メキシコは日本の自動車産業にとり、米州展開の戦略拠点に変化しつつある。

## 日系完成車(乗用車)メーカーのメキシコ生産拠点

(企業名, 操業開始年, 年生産台数)



メキシコでの主要メーカーの  
生産台数(2012)

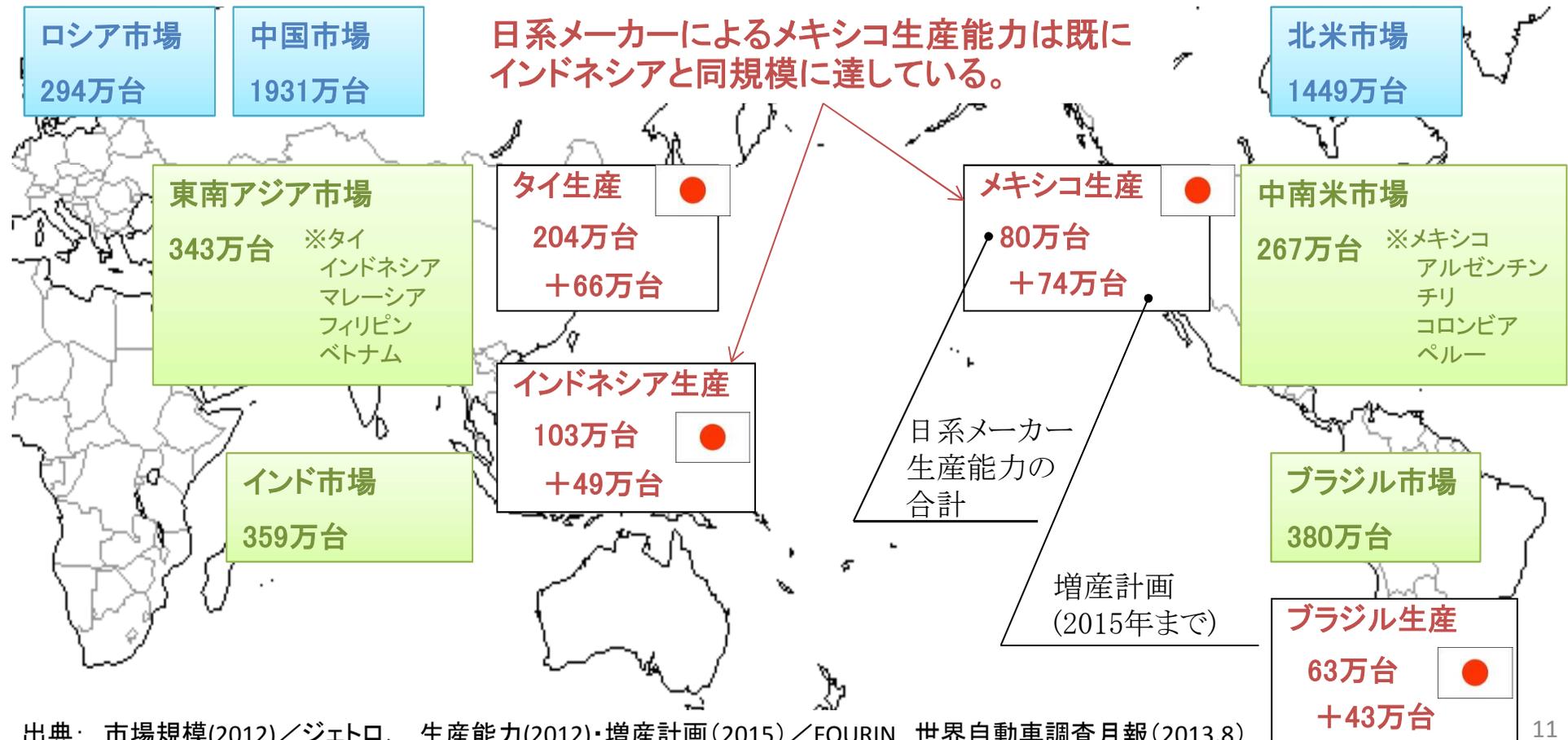
単位: 万台

メーカー名	生産	新規投資
日産	68	18
GM	57	—
VW・アウディ	60	15
フォード	45	—
クライスラー・フィアット	46	—
トヨタ	6	5
ホンダ	6	20
マツダ	0	18

# 多軸化する企業戦略

- ✓ 中南米の自動車市場はボリューム・勢い共に存在感を高めている。
- ✓ 日系企業は先行進出する「アジア」に加え、伸びる「中南米」市場へも着々と布石。
- ✓ これら文脈の中で、目下、メキシコに投資が集まっている。

日系完成車メーカーの生産能力及び増産計画(2011年)



1. 投資ラッシュ

2. 何故メキシコか？

### 3. 競争力の背景

4. リスク

5. 潜在力、さらなる成長

6. 日本との連携

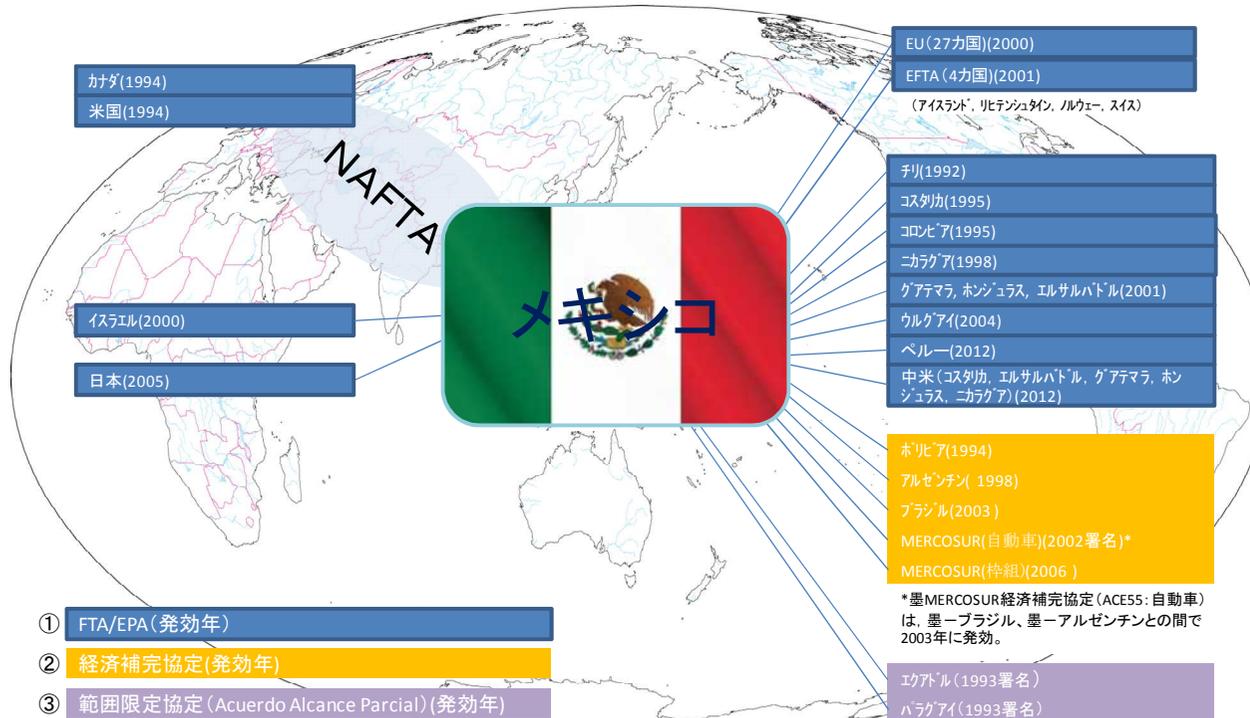
# 広範な自由貿易網

- ✓ 米国・EU・ブラジルをはじめ、重要市場へのアクセスを自由貿易協定(44カ国とFTA)・経済協定等により確保。 (自由貿易協定12件・44カ国、他経済補完協定、範囲限定協定を締結)

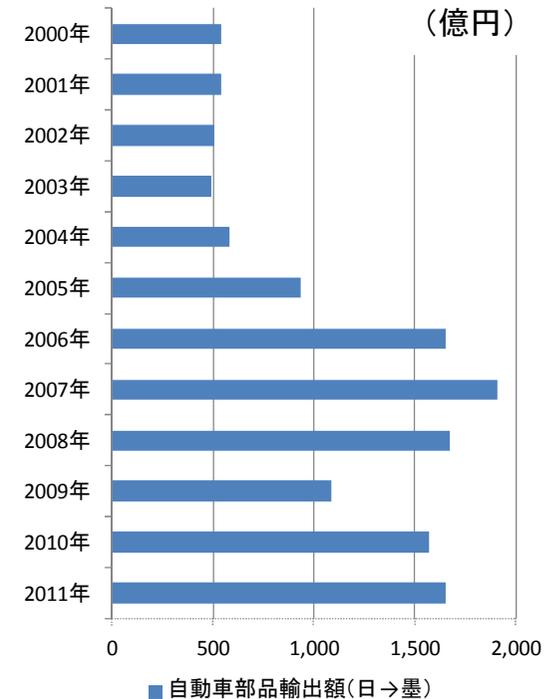
**特恵関税の例** 自動車輸出: ブラジル、アルゼンチン 35%→0%※、米国2.5%→0%、コロンビア 35%→0%  
 自動車部品輸出: ブラジル、アルゼンチン 13~18%→0% ※協定再協議により2012.3~2015.3期間は暫定的に無関税輸出枠が設定されている。

- ✓ さらにTPP、太平洋同盟の交渉を進める等、積極的な自由貿易政策を展開。
- ✓ 我が国とは日墨EPAが締結(2005.4)され、対墨自動車部品輸出が拡大する等の活用が進む。

メキシコの自由貿易協定・経済協定



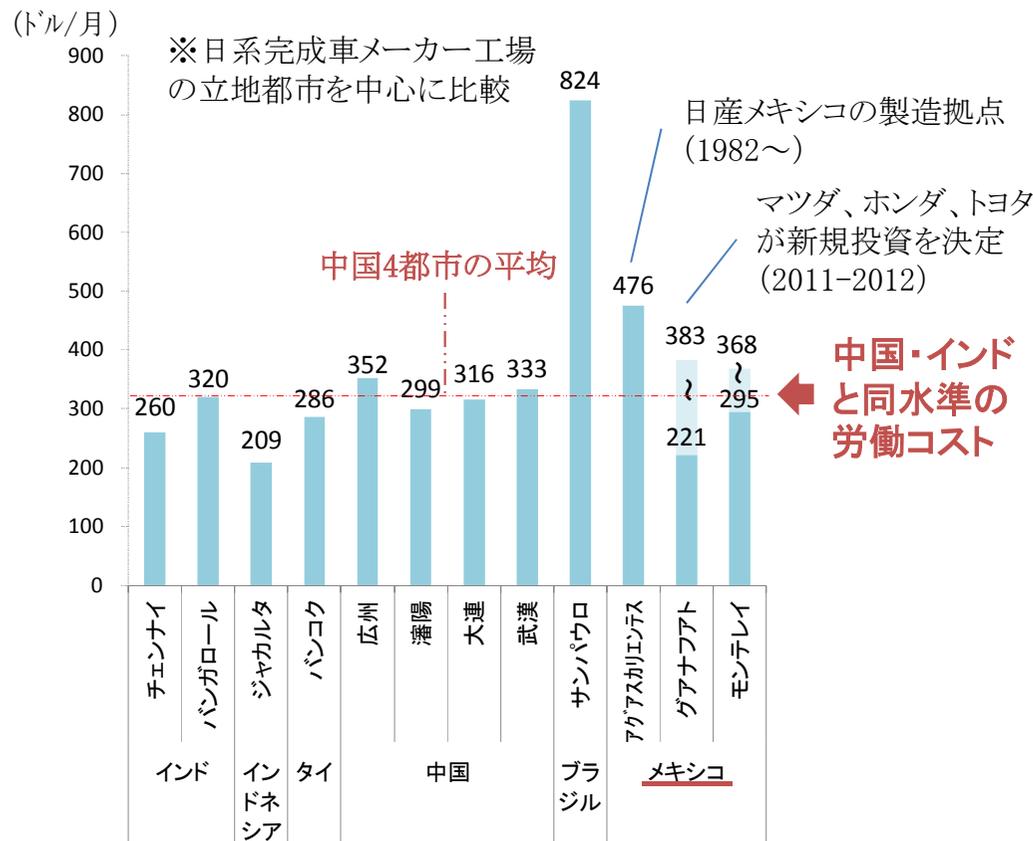
自動車部品輸出の実績(日→墨)



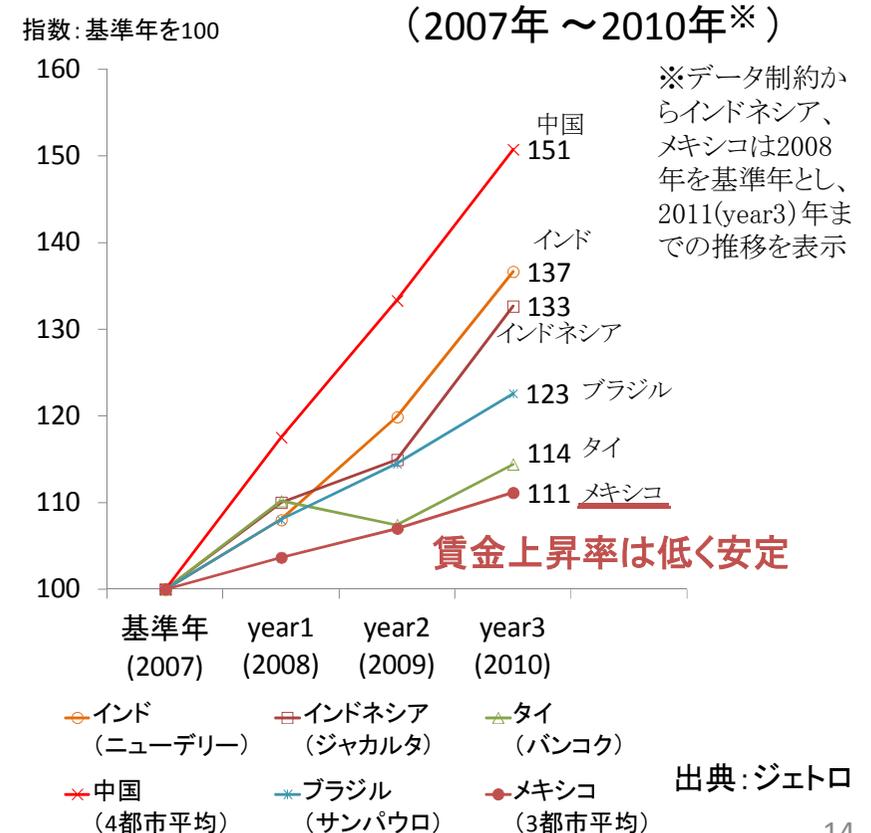
# 安価・安定的な労働コスト

- ✓ 中国、ブラジル等の新興国で労働コストが上昇する中、安価かつ安定的なメキシコの労働コストは競争力を増している。
- ✓ 賃金水準は中国・インドと同程度であり、さらに賃金上昇率は他国と比べ低く安定。
- ✓ 自動車・家電等の製造業では労組は一般に穏健。大規模ストライキ等も発生していない。  
(伝統的産業の鉱業や教員等では特権及び強い政治力を持つ労組が存在。)

新興国各都市の労働コスト(賃金)比較(2011年)



新興国各都市の賃金上昇推移の比較



出典: ジェトロ

# 地理的優位性、整備されたインフラ網

- ✓ 大市場を抱える米国と陸路で接続し、さらに中南米とも近接し、かつ太平洋・大西洋のいずれにも港を持つ等の、地理的な優位性を有する。
- ✓ 高速道、鉄道、港湾等の国内インフラ網が整備され、進出企業は地理的優位性を十分に活用可能。

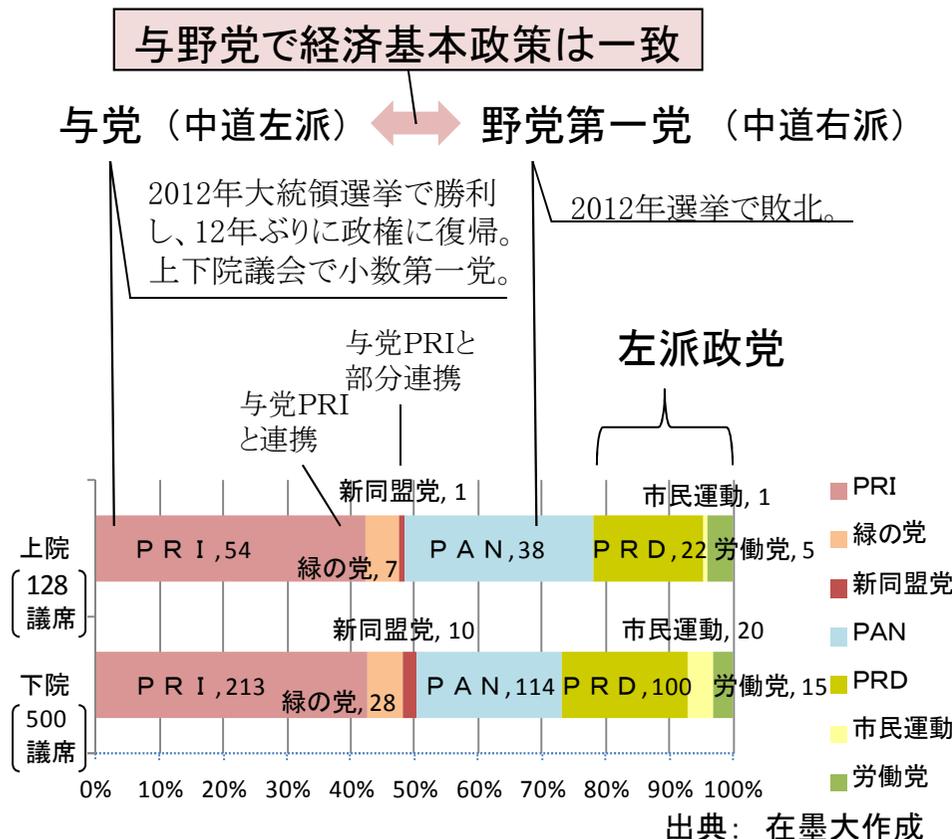
メキシコのインフラ網(例: 高速道、港湾)



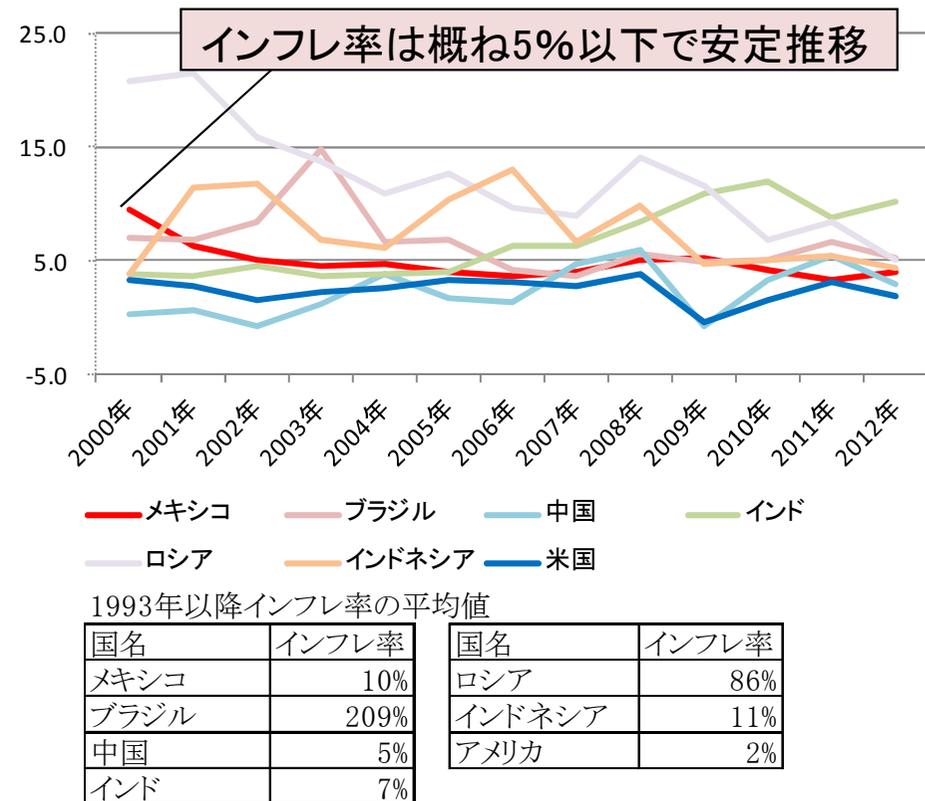
# 政治の安定

- ✓ マクロ経済の安定、自由貿易の推進、外国投資受入れの促進といった経済基本政策は与党、野党第一党で一致。任期6年の新政権(2012.12~2018.11)もこれら従来方針を維持。
- ✓ 2006年に単年度財政収支均衡(赤字予算の原則禁止)を法制化。厳しい財政運営規律を自らに課し、マクロ経済の安定を実現。  
(これら諸政策は、過去2度の経済危機【1982累積債務危機、1994通貨危機】を踏まえたもの)

与野党の上院・下院議席数 (2013年6月現在)



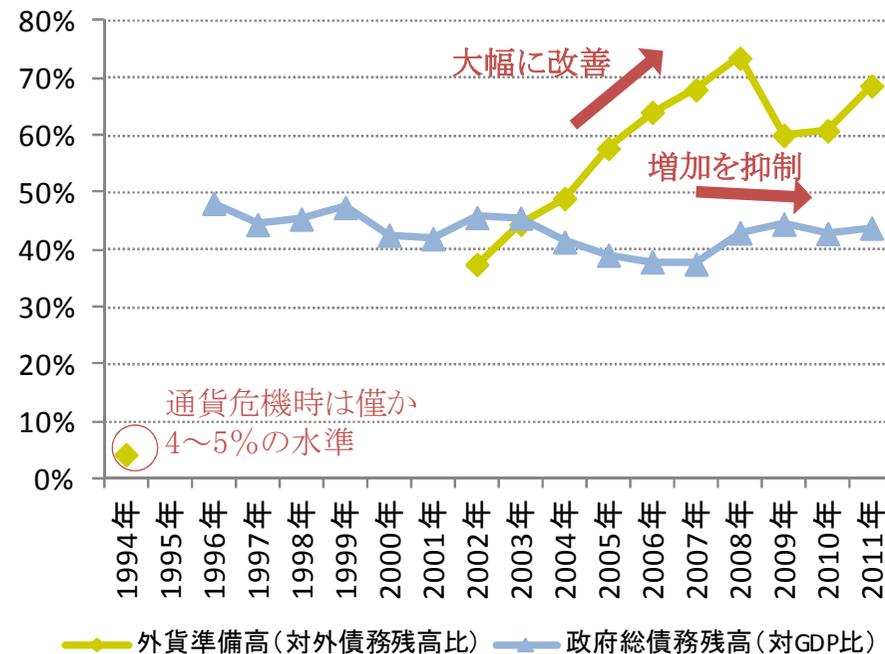
各国のインフレ率推移



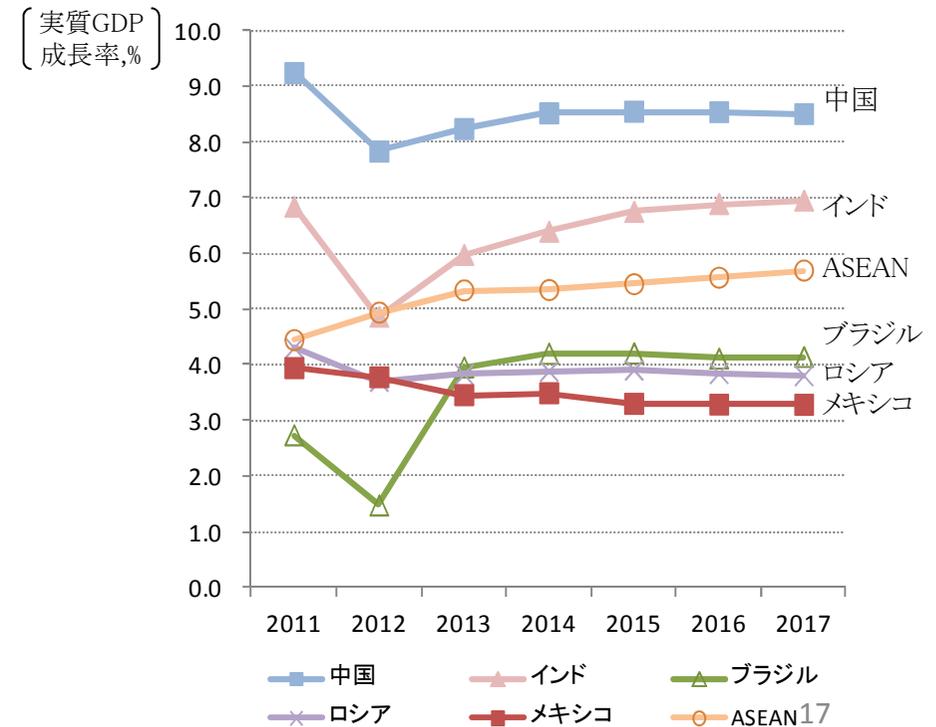
# 経済の安定

- ✓ 外貨準備高(対外債務残高比)が大幅に改善され、また政府総債務残高(対GDP比)の増加も抑制される等、通貨危機(1994年)以降、経済の安定化に向け、着実に成果が上げられている。
- ✓ ソブリン格付け※は信用格付け機関(Moody's)から投資適格(Baa1)を取得。 [※長期外貨建て国債]
- ✓ 産業の競争力、積極的な貿易政策、堅実な財政運営等から、メキシコ経済は底堅く、安定的に拡大する見通し。

外貨準備高(対外債務残高比)、政府総債務残高(対GDP比)の推移



各新興国・地域の経済成長率見通し(IMF)



1. 投資ラッシュ
2. 何故メキシコか？
3. 競争力の背景

## 4. リスク

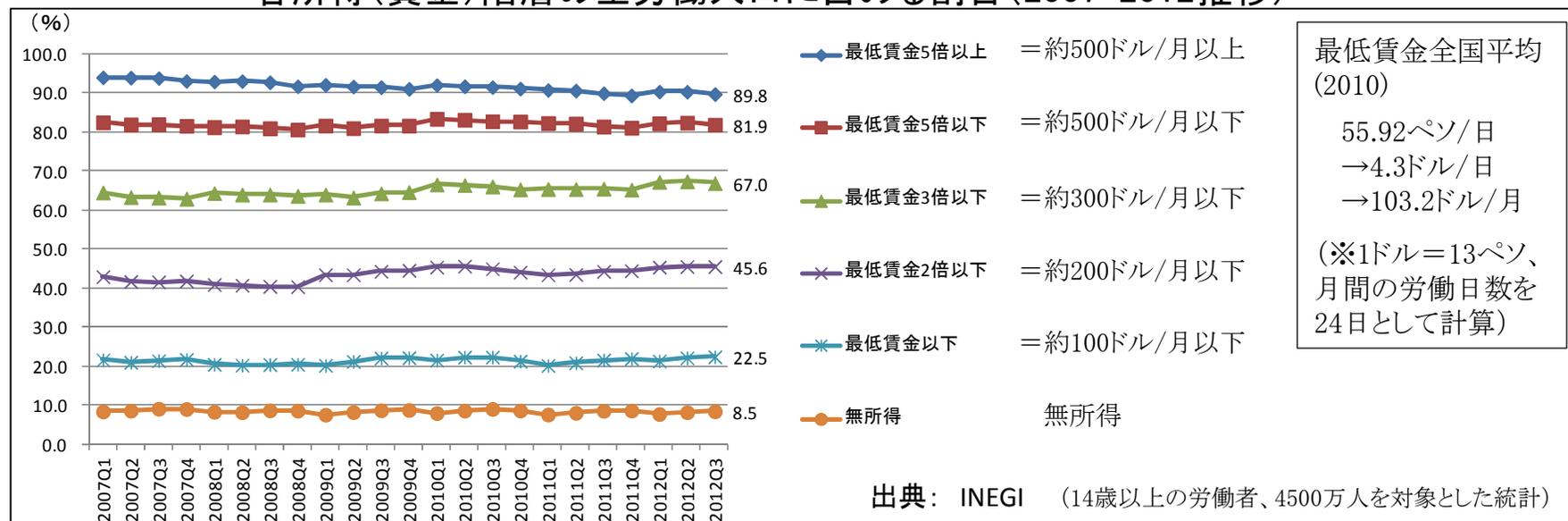
5. 潜在力、さらなる成長
6. 日本との連携

# 格差構造と貧困層

- ✓ **メキシコは世界1の富豪を輩出※1し、一人当たりGDPも10,000ドルを突破**  
 ※1 フォーブス誌長者番付：1位／カルロス・スリム氏(墨)、2位／ビル・ゲイツ氏、 ※2 10,146ドル/人(2011年名目)
- ✓ **他方、全労働者の8割が、中国(北京)の製造業ワーカー平均※3以下の賃金で就労。**  
 ※3 中国(北京)のワーカー(一般工職)の平均賃金は3445元/月(約550ドル/月) 出典:ジェトロ
- ✓ **さらに、全労働者の2割が(約1000万人)最低賃金(約100ドル/月)で就労または無所得。**  
 「インフォーマル(非公式)」セクターに属する雇用契約無し、社会保障無しの労働者は全体の6割に達する。

視点 →こうした格差構造は懸念材料だが、2012年夏の大統領選挙では与党が敗れ12年ぶりの政権交代が起こるも、左派政党が支持を伸ばす展開とならず、議席数も躍進せず。現与党も低所得層への分配、格差是正を公約の柱に掲げ取組む姿勢。

各所得(賃金)階層の全労働人口に占める割合(2007-2012推移)



## 組織犯罪、治安状況

- ✓ 前政権(2006.12-2012.11)による犯罪組織対策は、連邦政府治安当局と犯罪組織との衝突、及び組織間の抗争を激化させ、6年間で6万人を超える死者を出し、麻薬戦争とも呼ばれる状況を招いた。さらに殺人・強窃盗・誘拐等、一般市民を対象とする犯罪も漸増し、これら治安状況の悪化は現在メキシコの大きな課題。
- ✓ 米国への麻薬密輸をはじめとする犯罪組織の活動、治安悪化傾向の背景には社会格差・貧困層の存在があり、また、犯罪組織が地域社会と密接な関係を持つ側面もある。前政権下では軍隊も投入され、また組織幹部の殺害・逮捕の結果、細分化した組織間の抗争も発生し、米国との国境周辺・北部地域において、軍・警察及び組織関係者を主として多くの死傷者を出すに至った。

視点 →海外メディアが大きく取り上げるような軍と組織の衝突、また組織間抗争による凄惨な事件等は北部地域に多く、現在日系企業の投資が集中している中央高原地域等では比較的良好な治安が維持されており、企業による進出・投資を忌避させる状況には至っていない。(但し、治安が比較的安定的な地域においても、強窃盗・脅迫をはじめ、犯罪に対する十分な警戒は必要。)

視点 →北部地域にも多くの日系企業が製造拠点、支店等を構えており、治安状況の改善は重要な課題。2012年12月に就任した新大統領は前政権下での事態推移を踏まえ、犯罪組織との衝突は前面に出さず、犯罪の予防や社会政策により重点を置く方針。治安悪化傾向の改善が望まれている。

1. 投資ラッシュ
2. 何故メキシコか？
3. 競争力の背景
4. リスク

## 5. 潜在力、さらなる成長

6. 日本との連携

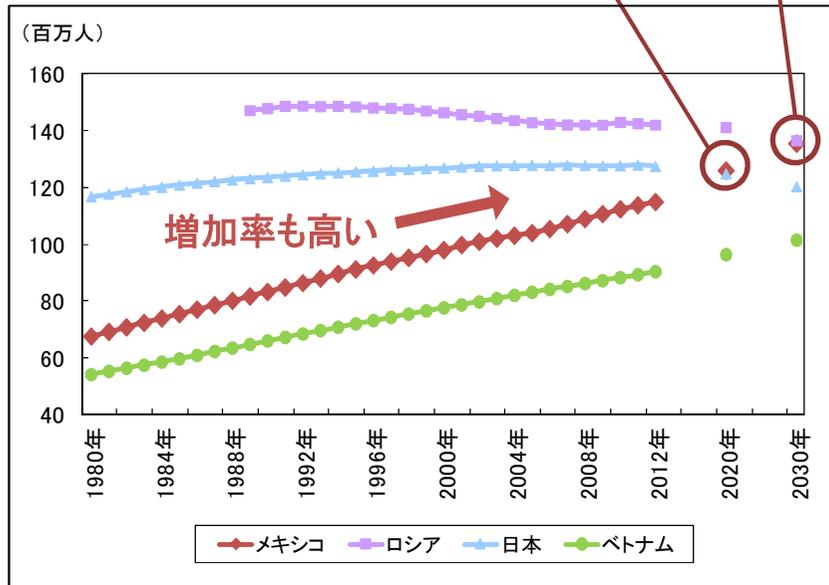
# 1.1億の人口、厚い若年層

- ✓ メキシコは1億1374万の人口を擁し、ロシア・日本に次ぐ世界第11位の人口国。
- ✓ さらに人口増加率も高く、2020年には日本を上回り、2030年にはロシアと並ぶ見通し。
- ✓ 人口構成では若年層が厚く、ベトナムとほぼ同型。 24歳以下の年齢階層が全体の半数を占めており、メキシコは生産年齢人口比が増加する「人口ボーナス期」の入り口に立つ。

## メキシコの人口推移・見通し

2030年には1.35億人でロシアと並ぶ

2020年には1.2億人を突破し、日本と順位交代



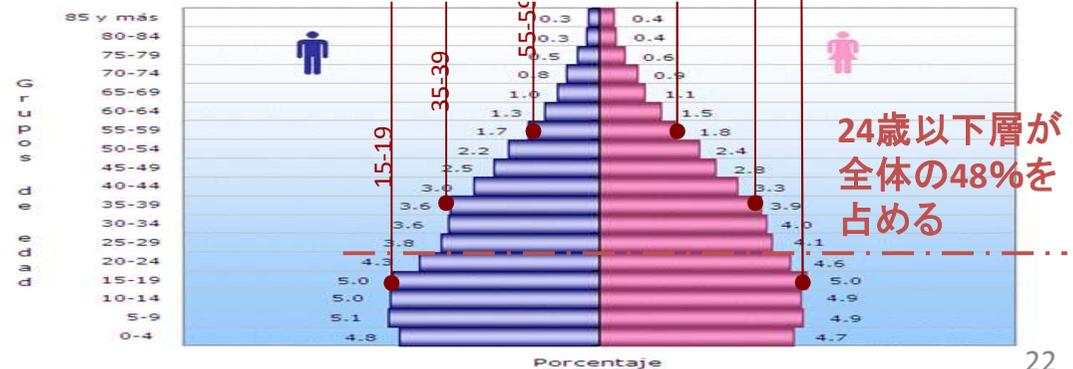
出典(1980-2012): 国連 世界人口推計2010 (中位推計)

## メキシコの人口構成・若年層

ベトナムの人口構成

人口構成はベトナムとほぼ同型

メキシコの人口構成 (2010年)



出典:  
ベトナムセミナー  
～ベトナムの最新経済事情と進出日系企業の今～  
2011年5月25日ジェトロ

出典: INGI

# 豊富な資源、強い農業

## 5. 潜在力、さらなる成長

- ✓ メキシコは石油生産量で世界8位、クウェート、イラクを凌ぐ有数の産油国。
- ✓ さらに銀(同1位)、亜鉛(同7位)を産出する他、とうもろこし、食肉の生産も世界上位。

### 一次産品生産量の世界順位 (メキシコ及び中南米各国の位置付け)

出典：石油/ BP統計  
 鉱物/ 米地質学研究所 Minerals Yearbook  
 農水産/ 国連食糧農業機関(FAO) Yearbook  
 畜産/ 米農務省 Livestock and Poultry: World Market and Trade

エネルギー(2011)		
石油		
順位	国名	シェア
1	サウジアラビア	13%
2	ロシア	12%
3	米国	9%
4	イラン	5%
5	中国	5%
6	カナダ	4%
7	UAE	4%
8	メキシコ	4%
9	クウェート	3%
10	イラク	3%

レアメタル(2011)		
モリブデン		
順位	国名	シェア
1	中国	38%
2	米国	26%
3	チリ	15%
4	ペルー	7%
5	メキシコ	5%
6	カナダ	3%
7	アルメニア	2%
8	ロシア	2%
9	イラン	1%
10	モンゴル	1%

リチウム		
順位	国名	シェア
1	チリ	37%
2	豪州	33%
3	中国	15%
4	アルゼンチン	9%
5	ポルトガル	2%
6	ジンバブエ	1%
7	ブラジル	0.5%

貴金属(2011)		
銀		
順位	国名	シェア
1	メキシコ	19%
2	ペルー	17%
3	中国	17%
4	豪州	8%
5	チリ	6%
6	ロシア	6%
7	ボリビア	6%
8	ポーランド	5%
9	米国	5%
10	カナダ	3%

ベースメタル(2011)		
鉄鉱石		
順位	国名	シェア
1	中国	43%
2	豪州	17%
3	ブラジル	14%
4	インド	9%
5	ロシア	4%
6	ウクライナ	3%
7	南アフリカ	2%
8	米国	2%
9	カナダ	1%
10	イラン	1%

ボーキサイト/アルミナ		
順位	国名	シェア
1	豪州	30%
2	中国	21%
3	ブラジル	14%
4	インド	9%
5	ギニア	8%
6	ジャマイカ	5%
7	ロシア	3%
8	カザフスタン	2%
9	スリナム	2%
10	ベネズエラ	2%

銅		
順位	国名	シェア
1	チリ	34%
2	ペルー	8%
3	中国	7%
4	米国	7%
5	豪州	6%
6	ザンビア	4%
7	ロシア	4%
8	インドネシア	4%
9	カナダ	3%
10	コンゴ	3%

亜鉛		
順位	国名	シェア
1	中国	31%
2	豪州	11%
3	ペルー	11%
4	インド	6%
5	米国	6%
6	カナダ	5%
7	メキシコ	5%
8	カザフスタン	4%
9	ボリビア	3%
10	アイルランド	3%

農産物(2010)		
大豆		
順位	国名	シェア
1	米国	35%
2	ブラジル	26%
3	アルゼンチン	20%
4	中国	6%
5	インド	4%
6	パラグアイ	3%
7	カナダ	2%
8	ウルグアイ	1%
9	ウクライナ	1%
10	ボリビア	1%

とうもろこし		
順位	国名	シェア
1	米国	37%
2	中国	21%
3	ブラジル	7%
4	メキシコ	3%
5	アルゼンチン	3%
6	インドネシア	2%
7	インド	2%
8	フランス	2%
9	南アフリカ	2%
10	ウクライナ	1%

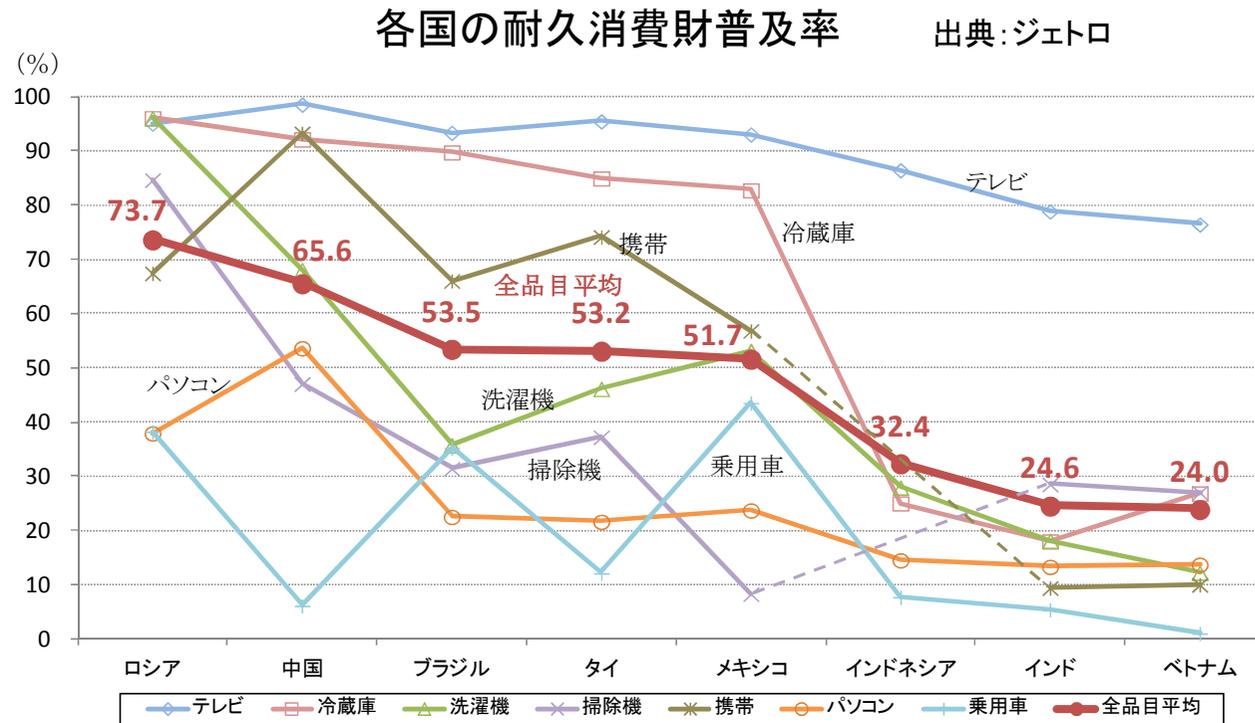
畜産物(2011)		
牛肉		
順位	国名	シェア
1	米国	21%
2	ブラジル	16%
3	EU	14%
4	中国	10%
5	インド	6%
6	アルゼンチン	4%
7	オーストラリア	4%
8	メキシコ	3%
9	パキスタン	3%
10	ロシア	2%

鶏肉		
順位	国名	シェア
1	米国	21%
2	中国	16%
3	ブラジル	16%
4	EU	12%
5	インド	4%
6	メキシコ	4%
7	ロシア	3%
8	アルゼンチン	2%
9	トルコ	2%
10	フィリピン	3%

水産物(2009)		
水産物		
順位	国名	シェア
1	中国	17%
2	ペルー	8%
3	インドネシア	6%
4	米国	5%
5	インド	5%
6	日本	4%
7	ロシア	4%
8	チリ	4%
9	ミャンマー	3%
10	フィリピン	3%

# “伸び代”を残す国内消費市場

- ✓ メキシコは一人当たり名目GDPが1万ドルを超える(マレーシアと同水準)が、国内格差が大きく、耐久消費財の普及率は、むしろ一人当たりGDPが約5000ドルのタイ並みに止まる。
- ✓ 今後、格差の是正・中間層の増加に伴う、国内消費市場の拡大が見込まれる。



※メキシコは2008年、  
インドネシアは2009年、  
その他は2007年の  
データ

※インドネシアの掃除  
機、携帯普及率は不明

## メキシコの中・低所得者層が購入する商品・サービス価格の例

地下鉄(全区間固定料金)	22円【3MXN】	タコス(1食分:2個)	144円【20MXN】
路線バス(メトロバス)	36円【5MXN】	SUBWAY(低価格商品)	144円【20MXN】
近郊鉄道(12.8kmまで)	47円【6.5MXN】	衛星TV(低価格帯・月)	1180円【164MXN】
近郊鉄道(12.8km以上)	109円【15MXN】	携帯端末(プリペイド端末)	2153円【299MXN】

SUBWAY(サンドイッチ・チェーン)  
の144円商品の例

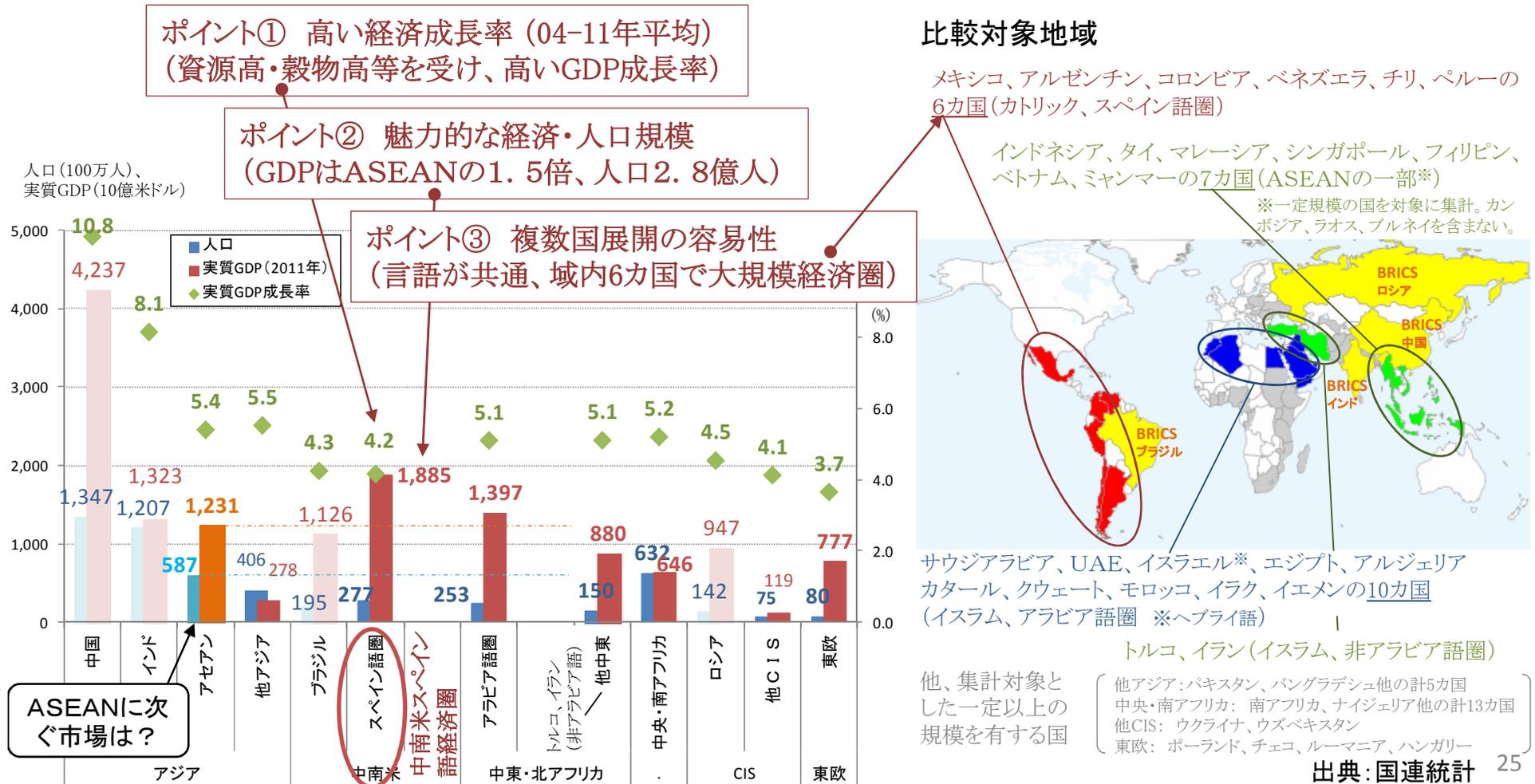


【 】内は現地通貨価格。1MXN=7.2円換算。

# 中南米経済との連携

- ✓ メキシコは経済・貿易協定により、近年活況を呈する中南米経済の恩恵を最大限に享受。
- ✓ また、注目に値するのはスペイン語を共通言語とする中南米経済圏。同地域は高い経済成長率、魅力的な市場規模を持ち、さらに域内で複数国展開が容易といった利点を持つ。

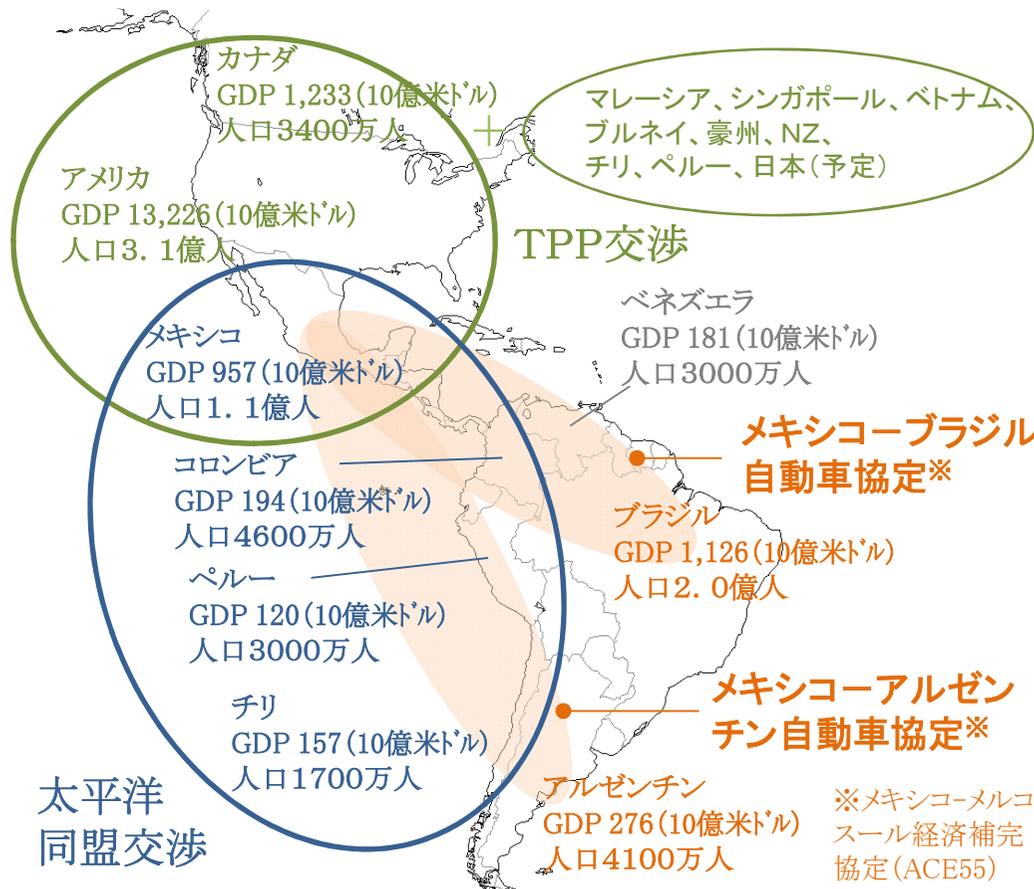
「中南米スペイン語経済圏」の魅力 ※実質GDP100億米ドル(ハンガリー、カタール並)又は人口2000万人以上の国を対象に集計。



# 積極的な自由貿易政策

- ✓ メキシコはアメリカ他とはTPP交渉を進め、NAFTAの更新と、アジアへの接近を図る。
- ✓ また、コロンビア、チリ、ペルーとは太平洋同盟交渉を進め、ASEANを上回る経済規模の自由貿易市場形成を目指す。
- ✓ 保護主義傾向を強めるブラジル、アルゼンチンとは、自動車協定を修正しつつ維持。

メキシコの進める経済・貿易協定交渉



各経済圏の規模、成長率の比較

太平洋同盟、中南米スペイン語圏の経済規模はASEANを上回り、また自動車市場も大きく伸びている。

※他方ASEANは経済成長率がより高く、また6億の人口を持つことから市場の潜在性も大きい。

	ASEAN	太平洋同盟	中南米スペイン語圏
加盟国数/交渉参加国数	10	4	6

	10億米ドル	1255	1428	1885
GDP				
(経済成長率)	%	5.4	3.4	4.2
人口	億人	6.1	2.1	2.8
一人当たりGDP	ドル/人	2064	6895	6797
自動車市場	万台	257	170	266
(伸び率)	%	4.6	16.5	19.5

※1 メキシコ、コロンビア、チリ、ペルー

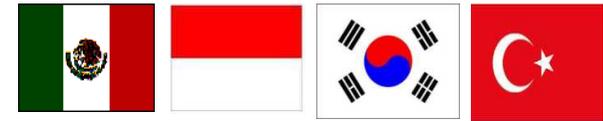
※2 メキシコ、コロンビア、チリ、ペルー、アルゼンチン、ベネズエラ (ここでは中南米スペイン語圏の一定規模以上の国と定義)

# 潜在性への評価

## 「グロース・マーケット」(Growth Markets) 最も成長が期待できるBRICs+4

BRICs+4 (メキシコ、インドネシア、韓国、トルコ) = グロース・マーケット

選定基準: 先進国以外で世界のGDP1%以上を占める国々



- 主な特徴:
- ・世界経済を牽引すると期待される国
  - ・成長に有利な人口動態、生産性向上の可能性が高く、世界平均よりも早いペースでの成長が見込める
  - ・十分な規模、流動性のある市場を有し、投資家や企業が経済活動を行うのに必要な環境が整っている(注: 必ずしも全ての場合に当てはまるとは限らない)

### オニール・ゴールドマンサックス会長



「(今注目している国は)メキシコです。中国が安い労働力に根ざした世界の製造工業から脱却する一方で、メキシコは競争力を取り戻しつつあります。メキシコペソの為替水準は非常に魅力的です。」

### 伊藤元重 東大教授



「米国とカナダとメキシコが自由貿易協定を結び、市場としての結束が強まっています。依然世界の中心である米国への地の利を活かし、カナダはエネルギー拠点として、メキシコは中国に代わる製造拠点として連動し始めています。」

1. 投資ラッシュ
2. 何故メキシコか？
3. 競争力の背景
4. リスク
5. 潜在力、さらなる成長
- 6. 日本との連携**

# 中南米経済・文化への入り口

- ✓ 言語(スペイン語)、文化(ラテン)の面で中南米地域は日本から遠いが、先行企業の中には高シェアを獲得する例もある。

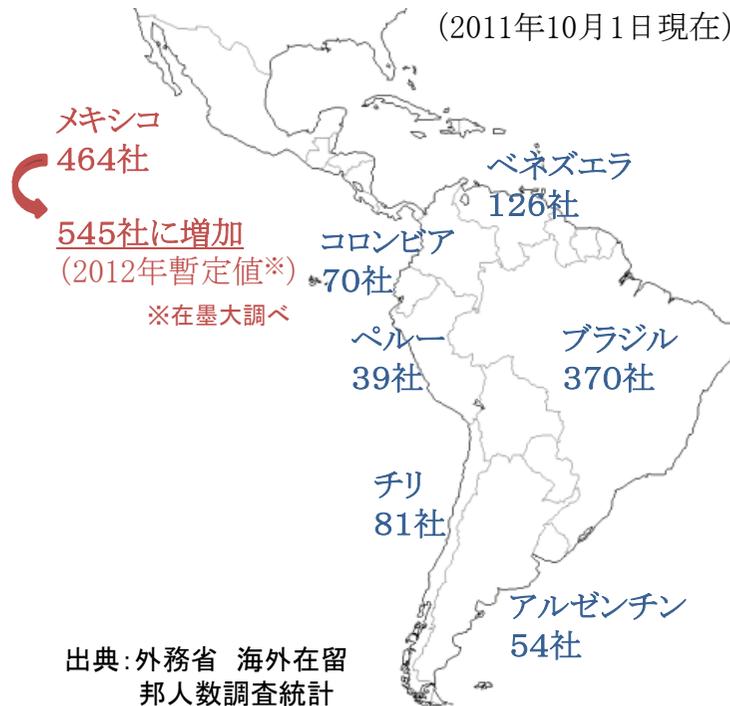
**高シェア獲得の例**  
 日産自動車(株)： 新車販売シェア25%で首位。旧型サニー(現地名ツル)がベストセラー。  
 東洋水産(株)： 即席麺市場シェア約80%程度で首位。価格は1個3ペソ(約20円)、全国各地で広く親しまれ、商品名「マルチャン」が“早く~する”の意で使われる程に浸透。(メキシコ)

- ✓ 比較的身近\*であることから、域内中、メキシコへの進出企業数が最多。
- ✓ メキシコが中南米経済・文化への入り口、さらなる展開への拠点に。

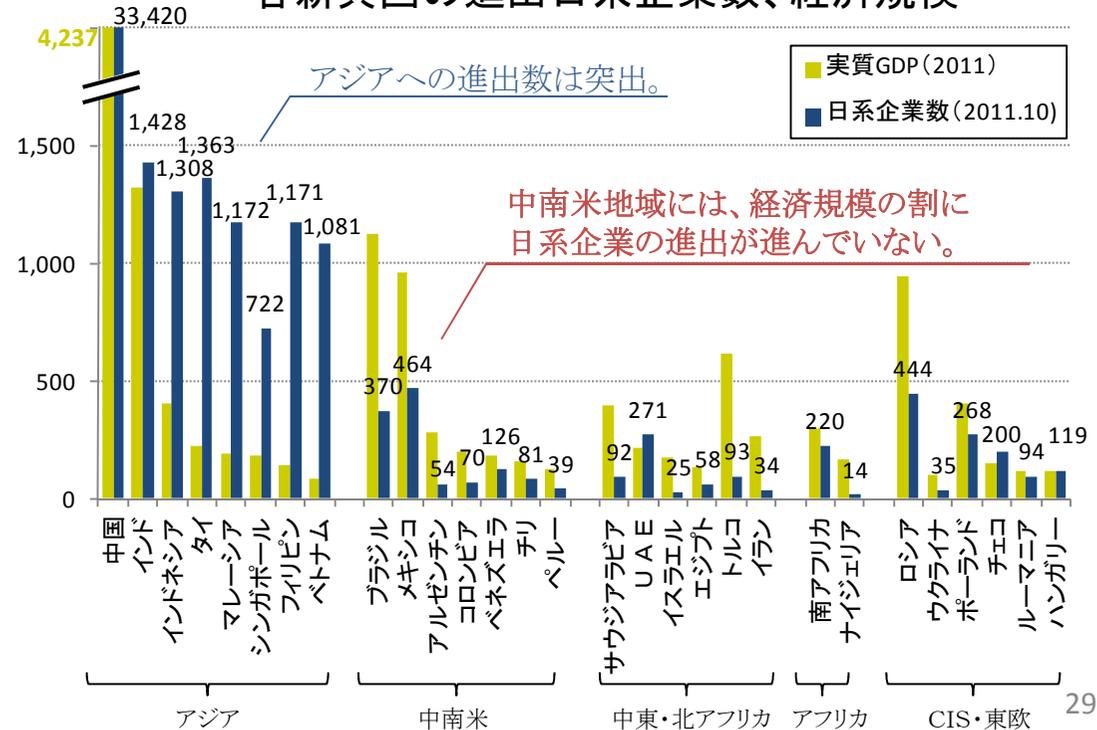
※直行便13時間、米子会社を通じた事業展開等

中南米主要国への進出日系企業数

(2011年10月1日現在)



各新興国の進出日系企業数、経済規模



# 成長の取込み、競争力の取込み

**豊富な人口・資源を有するメキシコ市場には高い成長期待。**さらに石油・鉱物・農水産物等、一次産品の価格上昇等を受けて**中南米の各国経済も好調。**ASEAN+インドに相当する自動車市場をはじめ、**中南米の新興市場は既に大きく立ち上がっており、BRICs、アジアに続き、同地域の成長取込みにも大きな機会が存在。**

さらに**メキシコ経済は中南米でも特有の強み\***を持ち、**ラテンアメリカ市場での事業展開においてその競争力の活用は一つの鍵**となり得る。

※労働コストが安価・安定的であることに加え、メキシコは北米経済圏の一員であり、かつラテン(中南米)の大国でもある特徴を持つ。その特有の立場を活かし、北米とはNAFTA及びTPP、中南米3カ国とは太平洋同盟、保護主義傾向を見せるブラジル・アルゼンチンとは自動車協定、と多方面の通商政策を展開し、米州製造拠点としての地位を高めている。

**日本とメキシコの強みは異なり、メキシコは低コストの労働力、地理的優位性等を有する一方で、高品質部品・部材の輸入や先端技術開発等では日本への依存傾向が強い。****両国の相互の補完関係はラテンアメリカ市場における競争優位に繋がる**可能性があり、日墨EPA、太平洋同盟等を通じた両国の連携強化は、この観点からも意義を有する。

さらに**メキシコは親日国**。メキシコ市内では日本食が広く楽しまれる他、芸術、音楽等、日本文化への関心は高い。また、豊かな食文化、多彩な音楽・工芸文化等を持ち、さらに著名なリゾート地や世界遺産を擁する観光大国でもあり、多様な楽しみと、親しみ易さを持つ。ビジネス・観光等、人の往来も活発であり、良好な両国関係の一層の発展が期待される。